

管楽器セッティングシート 記入用

マイクは1人1本。減らすなら金管同士で1本
クリップ持込は48Vを申告
立ち位置はギターアンプと反対側

バンド名（出演名義）

出演日・会場・イベント名

代表者名・連絡先（電話/メール）

管の本数と楽器（Tp・Sax・Tb…）

① 奏者ごとのマイク（1行＝管1本。番号は下手から①②③…）

番号	名前	楽器（Tp/Ts/Tb…）	マイク（会場スタンド／クリップ持込・機種）	電源（48V／電池／帯域）	返しに欲しい音
①					
②					
③					
④					
⑤					
⑥					

② 立ち位置（上手・下手は客席から見た向き。ギターアンプと反対側・ドラムから離す）

奥（バックライン）

管はギターアンプと反対側に横一列。下手から①②③…→

下手（客席から見て左）

上手（客席から見て右）

← 返し（台形）は管の前に1台。ベルはVo マイクに向けない

↓ 客席側

set-zu.jp

書き方： マイク＝管1本（番号・楽器・会場／持込を添える） 四角＝アンプ・鍵盤 丸＝ドラム 台形＝返し

共有マイクは「S（スタンド）」、持込は「48V」も注記

③ 返し・本数・ソロ・電源

返しの台数と位置
目安：管3人で1台。欲しいのは歌とキック

有線○本・ワイヤレス○本
分けて書く。ワイヤレスは帯域（B帯／2.4GHz）も

ソロ・持ち替え（曲と番号）
例：3曲目間奏 ②Ts→Solo マイク

48V・電源・ケーブル
クリップは48V。受信機なら電源1口

管楽器セッティングシート 記入例

記入例：7人編成・管3本・対バン30分
有線3本・返し1台を共有
②Ts だけクリップ持込（48V）

バンド名（出演名義）
ネオン・スカンク（7人）

出演日・会場・イベント名
11/8（日）〇〇ライブハウス・対バン30分

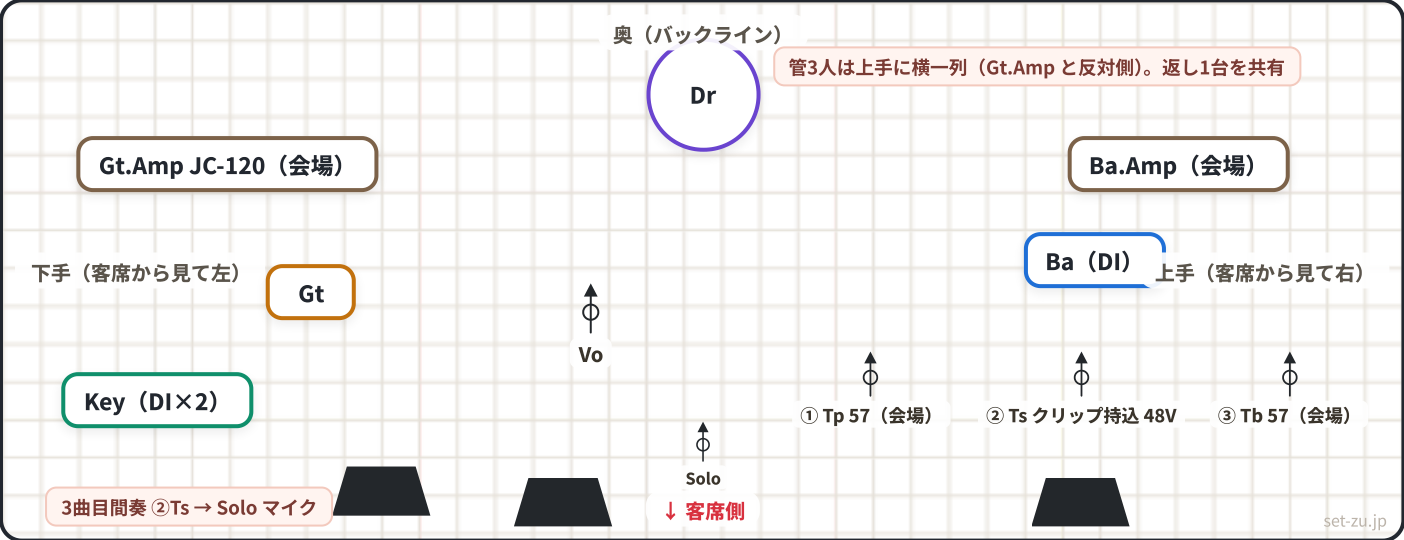
代表者名・連絡先（電話/メール）
山田 090-0000-0000

管の本数と楽器（Tp・Sax・Tb…）
Vo・Gt・Ba・Dr・Key+
管3（Tp・Ts・Tb）

① 奏者ごとのマイク（1行＝管1本。番号は下手から①②③…）

番号	名前	楽器（Tp/Ts/Tb…）	マイク（会場スタンド/クリップ持込・機種）	電源（48V/電池/帯域）	返しに欲しい音
①	高橋	Tp（トランペット）	SM57（会場）ブーム	不要	歌・キック
②	伊藤	Ts（テナーサックス）	ATM350U クリップ（持込）	48V 必要・XLR 持参	歌・Key
③	渡辺	Tb（トロンボーン）	SM57（会場）ブーム	不要	歌・キック
④					
⑤					
⑥					

② 立ち位置（上手・下手は客席から見た向き。ギターアンプと反対側・ドラムから離す）



書き方： マイク＝管1本（番号・楽器・会場／持込を添える） 四角＝アンプ・鍵盤 丸＝ドラム 台形＝返し

共有マイクは「S（スタンド）」、持込は「48V」も注記

③ 返し・本数・ソロ・電源

返しの台数と位置
1台（①②③の前で共有）
目安：管3人で1台。欲しいのは歌とキック

有線○本・ワイヤレス○本
有線3本（ワイヤレスなし）
分けて書く。ワイヤレスは帯域（B帯／2.4GHz）も

ソロ・持ち替え（曲と番号）
3曲目間奏 ②Ts センターのソロ
マイク（Vo とは別）
例：3曲目間奏 ②Ts → Solo マイク

48V・電源・ケーブル
②に 48V。電源は不要（持込の電気機材なし）
クリップは48V。受信機なら電源1口

管楽器のマイク早見表

本数・種類・立ち位置・返し・リハ

サクスは1人1本・金管は2人で1本まで
クリップ型はコンデンサー=48V
返しに欲しいのは歌とキック

① 本数の早見表（管1〜4本）

編成	標準（1人1本）	足りないとき（最小）
管1本	1本。スタンドでベルの前へ	減らせない。ボーカルマイクの兼用はしない（歌の音作りになっている）
管2本	2本（1人1本）	2本のまま。Tp と Sax は音量差が大きく共有に向かない
管3本	3本（Tp・Sax・Tb に各1）	Tp と Tb で1本（金管同士・スタンド）+Sax 1本＝計2本
管4本以上	人数分。ソロマイクを別に1本	金管は2人で1本まで（野外ビッグバンドの例＝Tb 4人に2本）。Sax は1人1本

減らすなら金管（トランペット・トロンボーン）同士で1本を分け合います。サクスは音がキーとベルの両方から出て、マイクの向きで音色が変わるので、2人で1本にすると片方だけ細くなります。ソロの多いサクスは1人1本が前提です。

② スタンドマイクとクリップマイク——会場に伝えること

種類	向いている場面	会場に伝えること
スタンド型（会場のSM57など）	立ち位置が決まっている。持込なし。いちばん多い形	「ブームスタンド〇本」。ベルの高さに合わせるのでストレートより扱いやすい
クリップ型・有線（持込）	動く・踊る・ベルの向きが変わる。ソロで前に出る	機種名+「48V（ファンタム）必要」。ケーブルはXLR-XLR
クリップ型・ワイヤレス（持込）	ステージを歩く・客席に降りる	機種名+周波数帯（B帯／2.4GHz）+受信機の置き場所と電源

楽器に付けるクリップ型の多くはコンデンサー型で、動くのにファンタム電源（一般に+48V）が要ります（電池ボックスやワイヤレス送信機から給電する機種もあります）。会場の卓はほぼ48Vを出せますが、そのchだけPAがONにする操作が要るので、申告なしに差しても音が出ません。

③ 立ち位置の3つの形

形	向いている場面	注意
上手か下手に横一列	管2〜3本の対バン。いちばん多い形	ギターアンプと反対側に寄せ、ドラムから離す
ボーカルの後ろの列	管3〜4本、奥行のあるステージ	歌のマイクにベルを向けない。箱馬1段あれば頭越しに飛ぶ
前に出てソロ	ソロやキメで一歩前	センターのソロマイクへ。返しを踏まない導線を空けておく

ドラムとギターアンプの近くに立つほど、管のマイクにドラムとアンプの音がかぶり、PAは管のフェーダーを上げられなくなります。ホーン隊は音の大きい楽器から離す、ベルを歌のマイクと返しに向けないの2つで、かぶりもハウリングも大半が防げます。

④ 返しの台数と欲しい音

管の人数	返しの台数	欲しい音（書き方の例）
管1〜2本	1台（2人で共有）	「Horn：歌とキック多め、自分は少し」
管3本	1〜2台（3人で1台でも成立）	「Horn：Vo・Keyのキメ・キック。管は返さなくてよい」
管4本以上	2台（左右）	ソロマイクの前に1台足す。要望はセクションで1つにまとめる

⑤ リハーサルで確かめる順番

リハで確かめる順番	確かめること
1. マイク番号順に1人ずつ8小節	PAがゲインとEQを決める。ベルとマイクの距離を本番と同じに
2. いちばん大きいキメ	音量の上限。ここでドラムのかぶりが目立つなら、1歩ドラムから離れる
3. いちばん静かなバックング	音量の下限。管を返しに入れていないか確かめる
4. ソロの曲を頭から	ソロと伴奏の音量差をPAに聴かせる。前に出るならその動きまで
5. 持ち替え・ミュートの曲	フルートやミュート付きTpは1段音が落ちる。距離を詰めるかPAに一言
6. 返しの要望をセクションで1回	3人で別々に言わず、まとめて1つ

会場の上限・文例・提出前チェック

3つの会場別／文例6種／12項目

① 会場ごとのマイクの上限

会場	上限になるもの	実例（公開されている機材表より）
ライブハウス	SM57 系の本数とスタンド	新宿SAMURAI：SM57×6・SM58×6・Beta58A×4 ほか計30本、DI 10、返し6、ワイヤレス5。京都 GROWLY：SM57×7・SM58×10、スタンド22本、返し5台
公共ホール	ワイヤレスの本数（受信機の ch 数）	横浜・ミズキーホール：ダイナミック24本に対しワイヤレスは6本まで。はね返り6台
学祭・野外	持込 PA の卓の ch 数とスタンド	生音が届かないので管は1人1本が原則。野外ビッグバンドの例＝金管は57、Tb 4人に2本、各セクションに予備1ch

ライブハウスの SM57 は6〜7本が実例の相場です。ドラムのスネア・タムやギターアンプにも 57 を使うので、**管3本に 57 を3本**は普通でも、管5本になると足りなくなります。本数が多い日は**持込のクリップで補うか、金管2人で1本**にします。

② 備考欄の文例（コピーして使えます）

こういうとき	備考欄にこう書く
管3本・全部会場のマイク	管楽器3本（Tp・Ts・Tb）＝SM57 系を ブームスタンドで3本 お借りします。1人1本、ベルの前です
クリップマイクを1本持ち込む	②Ts はクリップマイク（ATM350U）持込。 48V（ファンタム） をお願いします。XLR ケーブル持参
ワイヤレスのクリップ	①Tp はワイヤレスのクリップマイク持込（ B帯・1本 ）。受信機は下手袖に置き、電源1口お借りします
マイクが足りないと言われた	Tp と Tb で1本を共有します（ 金管2人で1本・スタンド ）。Sax は1本のままお願いします
ソロで前に出る	3曲目間奏で②Ts が センターのソロマイク へ出ます。Vo マイクとは別に1本お願いします
持ち替えがある	②は4曲目だけフルート。同じマイクで、曲間にスタンドの高さを変えます

③ 提出前チェック（12項目）

マイク

- ☐ 管の人数分の本数を書いた（1人1本が原則）
減らすなら金管同士で1本
- ☐ マイクに番号を振り、楽器と名前を書いた
下手から①②③…
- ☐ 持込マイクは機種名・有線／ワイヤレス・48V の要否を書いた
- ☐ スタンドの種類（ブーム）と本数を書いた
ベルの高さに合わせる

立ち位置・返し

- ☐ ギターアンプと反対側、ドラムから離れた
上手・下手は客席から見た向き
- ☐ ベルが歌のマイクと返しを向いていない
- ☐ 返しの台数と、欲しい音を書いた
自分の音ではなく歌とキック
- ☐ ソロで出る位置と導線を決めた
返しを踏まない

会場・当日

- ☐ 有線○本・ワイヤレス○本と分けて書いた
- ☐ ワイヤレスは帯域と受信機の置き場所・
電源を書いた
B帯か 2.4GHz か
- ☐ 持ち替え・ミュートの曲を備考に書いた
- ☐ リハで一番大きいキメと一番静かな曲を
吹く
上限と下限を決める

ビッグバンド（17人）の並びとひな壇は別の様式です。ロックバンドに管が入るときの申告は、この1枚で足りります。

ファイル名の型

バンド名_出演日_管セッティング.pdf

例：ネオンスカンク_1108_管セッティング.pdf（会場が探しやすい）

セット図くんで作るなら

マイクを管の人数分並べて、**番号・楽器・会場／持込**を書き添えるだけ。PDFと共有URLでそのまま提出できます（set-zu.jp/app/・登録不要）